

# 車いす技術講習会

新潟医療福祉大学 Flying Wheel Chair Supportes(FWS)

〒950-3102 新潟県新潟市北区島見町 1398 番地

## 助成事業の概要

先進諸国以外の国々では車いすを必要としている人が多く、それに対し供給が不足している現状である。日本で使われなくなったまだ使用可能な車いすを日本の工業高校生が修理して発展途上国のアジアに寄贈すること、海外で車いすの修理ボランティアをすることが本事業の目的である。

2015 年 8 月 26 日～8 月 31 日の海外修理会が実施時期である。

車いすを寄贈するだけでなく、義肢装具士を目指すサークルメンバーが対象者一人一人にあった車いすの選定とシーティングを実施する。例としてはフットサポートの調整、座幅調整などがある。

また対象者の介助者には現地の言葉で書かれた車いすの取扱説明書を配布し、使用法をサークルメンバーが実演しながら通訳を介し説明する。以上の事が本事業の内容である。

## 事業の成果

本事業では車いすを使用する対象者 1 人 1 人に合わせてシーティングを実施し、介助者に車いすの取り扱いを説明することを目標にした。その上で現地の言葉で説明が書かれたファイルを作成した。

狙い通り、取扱説明のファイルはタイの病院関係者にはとても有効なものとなった。しかし、病院関係者以外は車いすを貰うことができるという事実により、取扱説明のファイルにはあまり関心を持ってもらうことが出来なかった。また、車い

すを寄贈するにあたって対象者と我々との「車いす」に対する価値観の違いが浮き彫りになった。対象者は車いすを動かすることができる楽な椅子という考えを持っているように見受けられた。しかし、身体に適合していない車いすを使用することは 2 次障害を合併し、車いすを使用する前より病状を悪化させてしまう結果になる可能性が高い。

上記のように、今後の展望として車いすに対する考えを対象者含め介助者にも改めて貰いたいと我々は考えた。これより、取扱説明だけでは不十分な点をまとめて現地の言葉で記した「車いす」の概要を説明するものを加えて、「車いす」について理解してもらえるように新しくファイルの作成を検討したい。

他にも現地のコーディネーターと協力して、対象者の疾患などをまとめたデータを基に車いすのシーティングを実施したいと考えている。これは対象者に適合する車いすをある程度検討しておくことで現地での無駄な時間を減らし、一人でも多くの対象者に車いすを適合させるためである。

## 成果の広報、公表

1. サークル内で活動報告（10 月下旬）
2. 健康フェアにて活動報告（11 月中旬）

## 今後の展開

1. 今回海外の修理会を経験していないサークルメンバーは車いすシーティングの知識に差がある

と思われるのでサークル内で定期的に「シーティングの勉強会」、「車いすについての知識をより深める勉強会」を実施し、海外の修理会に参加していないメンバーと知識や技術の差をなくし誰でもシーティングができるようにしていくことで、次年度海外の修理会に参加する後輩に技術を伝承していく。

2. 現地のコーディネーターと密に情報共有をし、次回の活動に生かせるように入念に準備する内容を検討し、実行していく。

3. 海外で共に活動する大学との合同修理会を多く開催しコミュニケーションをとる。